

第7回 市長と話そう まちづくりミーティング ～伝統の継承～



ものづくりの「技を磨く」「情報収集と発信をする」を目的に活動している津山民芸協会の会員5人と市長が、10月7日に意見交換を行いました。

参加者は「作品の発表の場がほしい。目にしてもらえると意欲が増し、技術が磨かれる」「ものづくりのよさ、楽しさはできた時の達成感」「文化・芸術のレベルを高め、継承していくには子どもの頃から触れることが大切。学校行事での体験、まちかど美術館など、まち全体で活動する機会を増やしたい」などそれぞれの思いを話しました。

また、厚くて強い『雲齋織』という津山の織物が足袋の底に使われ、参勤交代に用いられていたという話や、令和の衆楽雅藻*1を実現したいなど、津山の歴史にも触れ、「まず地域の人に、工芸をはじめ地元の良いところを知ってもらい、訪れた人に紹介できるような取り組みが必要」など今後の課題について語り合いました。

市長は、「住民が津山の伝統文化に誇りを持ち、ものづくりの技術や伝統を途絶えないよう継承していくことが大切。ものづくりを通じて、皆さんと一緒に地域を元気にしていきたい。」と話すなど、熱心に意見交換を行いました。

*1 衆楽雅藻：明治のはじめ衆楽園で催した曲水の宴を歌った詩や書画を集録したもの



(左上から) 小林博道さん、谷口市長、奥田福泰さん、白石靖さん、今井烏石さん、上田繁男さん



絵ことば 今井烏石さん



横野和紙 上田繁男さん



三楽陶芸 奥田福泰さん



竹彫刻 小林博道さん



竹製郷土玩具 白石靖さん

■参加者への事後アンケートの声

- ・自由な雰囲気では話ができて、また市長が一人一人の意見をしっかり聞いて下さり大変よかった。話したいことが言えたので満足している。
- ・現在、市内でものづくりをしている作家の作品等を展示販売する場について、市としての考えを示して欲しい。
- ・自分の思いを伝え、市長の考えを聞くことができたことが良かった。
- ・他の参加者の津山市に対する考えを聞く事ができて良かった。
- ・こういう会が度々あると市と市民が身近に感じる